

巻頭言 『壁を感じたとき』 P.1

## 特集1 試験委員発表 大原常勤講師からのアドバイス

財務会計論

P.7

管理会計論

P.8

監査論

P.9

企業法

P.9~10

租税法

P.10~11

経営学

P.11~12

経済学

P.12

民法

P.12~13

統計学

P.13

## 特集2 【座談会】直対期の過ごし方

不安な気持ちに  
打ち勝つには

P.14~16

演習は必ず受けるべき

P.16~19

復習方法について

P.19~22

論文式試験に向けて

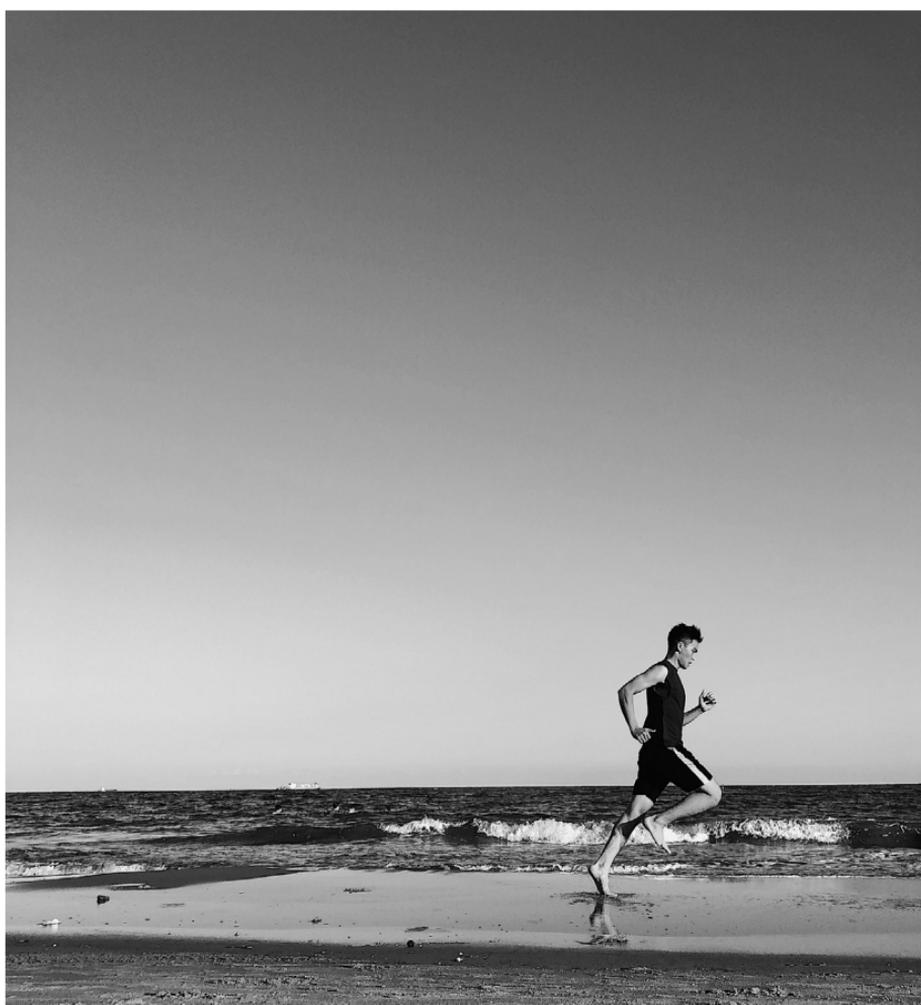
P.22~23

各担当者からの  
メッセージ

P.24~25

就職・転職のことなら、多くの法人との信頼関係を築いてきた

『大原キャリアスタッフ』へ



## 『壁を感じたとき』

人生ではいくつもの壁に突き当たる。目指す目標が高ければ高いほど、大きく高い壁が立ちほだかる。しかし、自らを信じて諦めなければ、決して超えられない壁などはない。そして、その直向きな努力の結果として輝かしい未来が開かれる。

最近、近所の楽器店のメンバーになり、ある楽器のレッスンを受けている。憧れのミュージシャンの曲を演奏したいと思い、十数年も前に買って押入の奥にしまい込んでいた楽器を取り出したのは、ほんの1年前のことである。月に4回のレッスンを受け、遮音ブースの無料レンタルで自主トレも行っている。

最初は楽譜を読んで音を出すだけで楽しかったが、最近はイメージ通りの音色やテンポを掴むことの難しさが自覚できるようになり、自主トレも以前のように楽しいとは感じなくなっている。

顧みるにちょうど公認会計士を目指して簿記の勉強を始めたばかりのとき、精算表の貸借がピタリと一致することが楽しくて繰り返し問題を解いた。しかし、少し学習が進んで難しい推定問題に悪戦苦闘するようになると、こんな推定ができたって実務にどれほど役立つのか、出題者の自己満足だろうとその問題自体を批判し始める。

ここで元メジャーリーガーのイチロー（鈴木一郎）さんの言葉を紹介しよう。

**壁というのは、できる人にしかやってこない。**

**超えられる可能性がある人にしかやってこない。**

**だから、壁がある時はチャンスだと思っている。**

意外なことに、あのイチローさんですら練習が嫌いだと言っている。つらいし、大抵はつまらないことの繰り返しだからだという。しかし、自らの目標の実現につながると信じて決して諦めない姿勢こそが、そのような練習を続けさせたのであろう。

いくつもの輝かしい記録を打ち立てたレジェンドが突き当たった壁とは比ぶべきも無いが、受験生としての諸氏が学習上の壁を感じたとき、自らが立てた目標の高さに臆することなく、その実現を信じて誰よりも早く教室に行き、或いは自室で机に向かい、誰よりも多くの問題を解き、或いは論点の理解を深めることで、各々の壁を乗り越えて欲しい。

諸氏には、公認会計士として活躍するという輝かしい未来が待ち受けているのだから。

[目次へ](#)

# 試験委員発表 大原常勤講師からのアドバイス

令和5年12月1日、官報にて令和6年及び令和7年（令和6年短答式試験以降）の試験委員が発表された。令和6年の試験委員については、32名の委員が新たに任命され、総勢94名体制となった。試験委員の顔ぶれも、大学教授の他に多くの実務家が加わっており、職業会計人の適性を判定する試験として、会計実務の高度化と専門化に対応した人選といえる。

さて、近年の出題傾向は、複数の試験委員が問題の作成に関わり、出題内容に偏りが生じないような配慮がなされている。とは言え個々の試験委員にはそれぞれ独自の研究テーマがあり、基礎的な内容が問われても、そこには試験委員独自の主張に通ずる切り口での出題も予想される。大原では、受験生個人の努力を超えた部分での情報を、各科目の常勤講師達が慎重に検討を重ねて講義や演習に織り込んでいる。したがって、大原の用意したカリキュラムを消化していただければ、受講生の皆さんは貴重な時間を浪費せず、知らず知らずのうちに試験委員の意図する答案が書けるようになっているのでご安心あれ！

本号では、科目別に令和6年の試験を担当される新任の試験委員の研究分野も含め、大原の試験委員対策のありかたを常勤講師からのアドバイスとしてご案内する。

## 令和6年・7年試験委員リスト

担当科目	試験委員	現職	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
財務会計論	川村 義則	早稲田大学商学学術院教授	○	○	○	○	○
	土田 俊也	兵庫県立大学大学院教授	○	○	○	○	○
	杉山 晶子	東洋大学教授	○	○	○	○	—
	菱山 淳	専修大学教授	○	○	○	○	○
	丸山 佳久	中央大学教授	○	○	○	○	—
	岡 研三	公認会計士	○	○	○	○	○
	辻 峰男	大阪公立大学大学院教授	○	○	○	○	○
	安井 一浩	神戸学院大学教授	○	○	○	○	○
	山添 清昭	公認会計士	○	○	○	○	○
	桐川 聡	公認会計士		○	○	○	○
	山田 康裕	立教大学教授			○	○	○
	梅原 秀継	明治大学専門職大学院教授				◎	○
	桑原 正行	駒澤大学教授				◎	○
	古杉 裕亮	公認会計士				◎	○
	小堀 一英	公認会計士				◎	○
	中山 重穂	愛知学院大学教授				◎	○
	木崎原 新	公認会計士				◎	○
	宮治 哲司	公認会計士				◎	○
	浅野 敬志	慶應義塾大学教授					◎
	大雄 智	横浜国立大学大学院教授					◎
管理会計論	片岡 洋人	明治大学専門職大学院教授	○	○	○	○	○
	籾本 智之	小樽商科大学大学院教授	○	○	○	○	○
	白畑 尚志	公認会計士	○	○	○	○	○
	成田 智弘	公認会計士		○	○	○	○
	市川 育義	公認会計士		○	○	○	—
	島 吉伸	近畿大学教授		○	○	○	○
	松木 智子	帝塚山大学教授			○	○	○

目次へ 

担当科目	試験委員	現職	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
管理会計論(1)	山口 直也	青山学院大学大学院教授			○	○	○
	渡邊 章好	東京経済大学教授			○	○	○
	楠 由記子	青山学院大学教授				◎	○
	荒井 謙二	公認会計士				◎	○
	熊谷 康司	公認会計士				◎	○
	生越 栄美子	公認会計士					◎
監査論	江島 智	公認会計士	○	○	○	○	○
	佐久間 義浩	東北学院大学教授	○	○	○	○	○
	和久 友子	公認会計士	○	○	○	○	○
	異島 須賀子	久留米大学教授		○	○	○	○
	奥西 康宏	専修大学教授		○	○	○	○
	蟹江 章	青山学院大学大学院教授			○	○	○
	紺野 卓	日本大学教授			○	○	—
	若尾 慎一	公認会計士			○	○	○
	今井 泰弘	公認会計士				◎	○
	小澤 康裕	立教大学准教授				◎	○
	原田 誠司	公認会計士				◎	○
	井上 善弘	香川大学経済学部教授				◎	○
	藤原 英賢	追手門学院大学経営学部准教授					◎
企業法	水島 治	武蔵大学教授	○	○	○	○	—
	上田 純子	愛知大学大学院教授	○	○	○	○	—
	武田 典浩	国土館大学教授	○	○	○	○	○
	新里 慶一	中京大学教授	○	○	○	○	—
	矢崎 淳司	東京都立大学大学院教授	○	○	○	○	○
	品谷 篤哉	立命館大学教授		○	○	○	○
	舩津 浩司	同志社大学教授		○	○	○	—
	今川 嘉文	龍谷大学教授			○	○	○
	岡 伸浩	慶應義塾大学大学院教授				◎	○

担当科目	試験委員	現職	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
企業法 <small>しき</small>	大久保 拓也	日本大学教授				◎	○
	笹岡 愛美	横浜国立大学大学院教授				◎	○
	原 郁代	横浜商科大学教授				◎	○
	高木 康衣	熊本大学准教授					◎
	高橋 真弓	一橋大学大学院准教授					◎
	藤嶋 肇	近畿大学教授					◎
	松尾 健一	大阪大学大学院教授					◎
租税法	吉村 典久	慶應義塾大学教授	○	○	○	○	
	佐藤 敏郎	公認会計士	○	○	○	○	
	野一色 直人	京都産業大学教授	○	○	○	○	
	石黒 徹哉	公認会計士		○	○	○	
	神林 克明	公認会計士		○	○	○	
	鶴田 泰三	公認会計士		○	○	○	
	柘植 里恵	公認会計士			○	○	
	伊川 正樹	名城大学教授				◎	
	加藤 友佳	明治大学准教授				◎	
	坂巻 綾望	同志社大学大学院教授				◎	
	西尾 宇一郎	公認会計士				◎	
	吉田 博之	公認会計士				◎	
	経営学	近能 善範	法政大学教授	○	○	○	○
西村 友幸		小樽商科大学大学院教授	○	○	○	○	
竹内 倫和		学習院大学教授	○	○	○	○	
鈴木 健嗣		一橋大学大学院教授		○	○	○	
永田 京子		東京工業大学工学院准教授		○	○	○	
安田 聡子		九州大学大学院教授		○	○	○	
芹田 敏夫		青山学院大学教授			○	○	
河合 篤男		名古屋市立大学大学院教授				◎	
森 直哉		神戸大学大学院教授				◎	

担当科目	試験委員	現職	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
経営学 つぎ	柳瀬 典由	慶應義塾大学教授				◎	
	山田 和郎	京都大学大学院准教授				◎	
	若林 隆久	高崎経済大学准教授				◎	
経済学	秋山 太郎	新潟県立大学教授	○	○	○	○	
	八木 匡	同志社大学教授	○	○	○	○	
	高橋 知也	亜細亜大学教授	○	○	○	○	
	芦谷 政浩	神戸大学大学院教授	○	○	○	○	
	蓮見 亮	武蔵大学教授		○	○	○	
	滝澤 美帆	学習院大学教授				◎	
民法	石田 剛	一橋大学大学院教授	○	○	○	○	
	武川 幸嗣	慶應義塾大学教授	○	○	○	○	
	中村 肇	明治大学専門職大学院教授		○	○	○	
	堀川 信一	大東文化大学教授			○	○	
	中谷 崇	立命館大学教授				◎	
統計学	勝浦 正樹	名城大学教授	○	○	○	○	
	佐藤 美佳	筑波大学教授	○	○	○	○	
	狩野 裕	大阪大学大学院教授		○	○	○	
	元山 斉	青山学院大学教授				◎	
	山下 智志	統計数理研究所副所長・教授				◎	

※表中の○印は、令和3年以降の試験委員在任年を示している。◎印は、新任の試験委員を示す。

※本試験委員情報は、令和6年1月20日現在のものです。令和7年公認会計士試験の論文式試験のみの試験科目（租税法、経営学、経済学、民法及び統計学）を担当する試験委員については、令和6年12月に公表される予定です。最新の情報は、公認会計士・監査審査会のホームページにてご確認ください。

目次へ 

## ■常勤講師からのアドバイス

### 財務会計論

財務会計論担当

瀧本 祐和



令和6年は4名の実務家のほか、梅原秀継 委員（明治大学専門職大学院教授）と桑原正行 委員（駒澤大学教授）、中山重穂 委員（愛知学院大学教授）が新任の試験委員として任命されている。

財務会計論は計算および理論、古典的論点から最新のトピック、わが国の会計から国際会計まで、幅広い知識が問われる科目であり、試験委員も様々な分野の専門家が任命されている。ただし、財務会計論は総勢18名の試験委員で構成されるため、特定の試験委員の研究分野や学説について対策するような勉強を行う必要はない。いずれの試験委員の研究領域も、公認会計士試験で出題可能な範囲については大原のテキストでほぼカバーしており、また発展論点や近時のトピックについては演習で補完していく予定である。大原受講生の皆様は、何も心配することなく、テキストおよび演習を強力なツールとして学習に邁進し、本年の合格を勝ち取っていただきたい。

目次へ 



令和6年は2名の実務家のほか、楠由記子 委員（青山学院大学教授）が新たに試験委員に任命されている。

原価計算から管理会計、伝統的な論点から新しい論点までが網羅的に出題される試験であるため、例年、実務家を含め、幅広く様々な分野でご活躍されている専門家が12名試験委員として任命されている。管理会計論の試験範囲のうち、特定の分野だけをご専門とされる試験委員の先生はいらっしゃらないため、日ごろの学習において、特段の試験委員対策を行う必要はありません。大原の教材ですべて対策できているため、特定の分野に偏った学習をせず、教材を最大限活用して網羅的に勉強を続けていただきたい。また、出題可能性を考慮した上で必要に応じて試験委員対策として、テキストとは異なる表現を紹介するといった対策を演習で随時行っていきますので、すべての演習を受講していただき、網羅的な復習を行い、管理会計論の実力を合格レベルに引き上げていただきたい。

## 監査論

監査論担当

栗田 篤



令和6年は2名の実務家のほか、小澤康裕 委員（立教大学准教授）及び井上善弘委員（香川大学経済学部教授）が新たに試験委員として任命された。

令和6年の監査論の試験委員は12名で構成されているが、様々な分野の専門家及び実務家が任命されている。そのため、特定の分野に偏った学習を行うのではなく、試験範囲全般を網羅的に学習していただきたい。そして、そのことが応用的な問題や特殊な論点の問題において点数を拾うことにもつながる。

合格レベルの実力は、テキスト・問題集・演習を用いて学習し、苦手分野をなくすことにより到達することができる。着実に備えていただきたい。

## 企業法

企業法担当

高田 貢介



令和6年は岡伸浩 委員（慶応義塾大学大学院教授）、大久保拓也 委員（日本大学教授）、笹岡愛美 委員（横浜国立大学大学院教授）、原郁代 委員（横浜商科大学教授）が新たに試験委員として任命されている。

企業法は、試験委員12名体制であるが、先生方の主な研究領域については、公認会計士試験の出題範囲に

[目次へ](#)

なっている限度において、大原のテキストでカバーしている。また、企業法は、科目の特徴として試験委員の交代があっても出題傾向に変化が現れにくい科目でもある。もちろん、近時の判例等、先生方が興味を持たれているであろう論点については、今後の演習で出題を予定している。したがって、当たり前のようではあるが、演習を受け、普段通りの勉強を続けることが、試験対策として重要であるとお考えいただきたい。

## 租 税 法

租税法担当

福田 幹



令和6年は2名の実務家のほか、伊川正樹 委員（名城大学教授）、加藤友佳 委員（明治大学准教授）、坂巻綾望 委員（同志社大学大学院教授）が新たに試験委員として任命されている。

伊川正樹委員は、特に譲渡所得税、地方税制について研究され、加藤友佳委員は、公益法人税制、事業体課税、多様化する家族と税制を専攻分野とされ、また、坂巻綾望委員は、公法学、所得税法、国際課税などを研究されている。

租税法は、試験委員によって出題内容が変わるという可能性は低い科目であり、税制改正や実務的に話題性の高い論点についても、テキストや演習で網羅している。したがって、これまで学習してきた法人税、所得税、消費税の基本的な論点を確実に復習し、演習問

目次へ 

題を解いていくことが合格への近道といえる。大原では基本的な論点を中心に教材等を作成しており、大原で提供しているテキスト、問題集、演習を中心に学習を進めていくことが合格への近道とお考えいただきたい。

## 経営学

経営学担当

松下 徹



今回は12名の試験委員のうち、新試験委員への交代が5名であり、残りの7名の委員は再任されている。

新任のうち、組織論・戦略論を専門分野とする試験委員は、河合篤男委員（名古屋市立大学大学院教授）と若林隆久委員（高崎経済大学准教授）の2名である。また、ファイナンスを専門分野とする試験委員は森直哉委員（神戸大学大学院教授）、柳瀬典由委員（慶應義塾大学教授）、山田和郎委員（京都大学大学院准教授）の3名である。

今回は、新試験委員の人数が多いことから、新試験委員対策の重要性が高まるが、これまでの講義で取り上げたテキスト（上巻・下巻）の重要性のウェイトが必ずしも低くなるわけではない。論文基礎演習及び論文応用演習の実施に合わせて、ファイナンスについては問題集を解いていただき、組織論・戦略論については下巻テキストの読み込みを進めていただきたい。

新試験委員の対策として追加的に学習しなければならない項目は、新試験委員対策講義にて取り上げる。これまでの講義で取り上げたテキスト（上巻・下巻）

目次へ 

と新試験委員対策テキストをしっかりとマスターしていただければ、確実に合格点をクリアすることができるので、ご安心いただきたい。

## 経済学

経済学担当

平野 雅之



今年回は6名の試験委員のうち、新試験委員への交代が1名であり、残りの5名の委員は再任されている。

新試験委員の滝澤美帆 委員（学習院大学教授）は、マクロ経済学がご専門。特に企業の生産性に関する実証分析を研究テーマとされている。現在の経済学の問題は、大部分が標準的な問題に均一化され、試験委員を意識しないでも無理なく合格点をとれる。とは言え、試験委員と多少とも関わりのある領域から出題される傾向もなくはないので、今年も特に直対期の出題に反映させていく。受講生のみなさんは、何ら試験委員を意識することなく、淡々とこれまで通り演習（答練）中心に仕上げていただくだけで必要十分である。

## 民法

民法担当

野附 正彦



令和6年は新任の試験委員として中谷 崇 委員（立命館大学教授）が任命されている。中谷 崇 委員（立

[目次へ](#)

命館大学教授)は、特に錯誤に関する研究で顕著な業績を上げられている。

元より民法は、幅広い範囲から出題され、試験委員の先生のご専門分野が出題に反映されにくい科目とすることができるが、先生方が興味を持たれていると思われる論点については、今後の演習で出題することを予定している。また、大原のテキスト・問題集は公認会計士試験での出題範囲について、しっかりと記述してあるので、テキスト、問題集で知識を確認し、演習を受けるという普段どおりの勉強を続けることが、試験対策として重要であり、かつそれで十分ということができるだろう。

## 統計学

統計学担当

井口 泰宏



令和6年は、元山齊 委員 (青山学院大学教授)、山下智志 委員 (統計数理研究所副所長・教授) が新たに試験委員として任命された。

統計学は、試験委員の専門分野と本試験の出題分野に深い関係がない科目である。そのため、試験委員の顔ぶれに応じて学習方針を変える必要はない。

出題形式や出題内容は毎年少しずつ変化しているが、「基本問題で失点しなければ換算得点が60近くまで達する」という状況が変わったことはない。いつの年も、基本問題の攻略を目標に論文演習の復習を繰り返すことが最も効率的な学習法である。

目次へ 

## 特集2

# 【座談会】直対期の過ごし方

永瀬 2024年公認会計士試験もいよいよ大詰めとなってまいりました。我々資格の大原の講師陣もこれからの直対期に向けてどのような点を意識して学習すべきなのかを常に考え、議論をしております。今回は4名の講師にお集まりいただき、直対期の過ごし方についてお話を伺います。



司会（財務会計論担当）：永瀬 幹根

## 不安な気持ちに打ち勝つには

永瀬 直対期を迎えるにあたって、受講生の皆さんも様々な悩みを抱えられているかと思います。そこで、今日は受講生の皆さんの声を代弁する形でその悩みをぶつけていきますので、適切なアドバイスをお願いいたします。

[目次へ](#)

まず、このぐらいの頃から「不安な気持ちが強くなって、なかなか地に足がつかなくなってしまう」というお声を耳にします。これはすべての公認会計士受験生に共通のことだと思いますが、こうした不安な気持ちに打ち勝つにはどうしたらよいでしょうか。



### 監査論担当：年神 亮子

**年神** 不安な気持ちは誰でも持っていますが、それに打ち勝つにはまず、「できること」と「できないこと」をはっきりさせることです。「この問題はできる」、でも「この問題はできない」というように今の自分の実力を客観的に把握するのです。そうすれば、あとは、できない問題や論点を一つずつ潰し、できることを増やしていけばよいのです。その際に注意していただきたいのは、全部完璧にできる必要はなく、合格に必要な範囲の問題が試験の日までに解けるようになれば良いのです。今、できない問題や論点が大量にあるから

[目次へ](#)

といって諦めてはいけません。コツコツと論点を潰し続け、できる論点を増やし続けることが重要です。



### 管理会計論担当：水野 悦之

**水野** 不安な気持ちは「これが出たらどうしよう、あれが出たらどうしよう」という気持ちから生まれてしまう訳ですね。これを考えた瞬間に自分自身が「できないこと」の認識ができたということです。あとはこれをフォローしていけばよい訳です。ただし、すべての科目に試験委員は大勢いらっしゃいますので、決して「端から端まで完璧」を求めてはなりません。ここはこれくらいできるという線引きをして、その認識をすることが大切です。

### 演習は必ず受けるべき

**永瀬** 演習の結果が出ないことで余計に不安な気持ちが増してきて、演習自体を受ける気持ちが弱くなってしまう方もいらっしゃるようです。

[目次へ](#) 



### 財務会計論担当：瀧本 祐和

**瀧本** 演習は実戦練習です。テキストを読んだり、問題集を解いたりするのは基礎練習であり、実戦練習を経て初めて本番で戦えます。基礎練習のみで本番で良い成績を出せる人はごく限られた方のみでしょう。多くの方は、実戦練習を経て本番の感覚をつかむことにより、基礎練習で鍛えた能力を100%発揮できるようになります。実戦練習をせずに本番で良い成績は出せないのですから、公認会計士試験の学習であれば「演習受けずして、合格なし」ということになるのです。

**年神** 演習は問題を解くこと自体も重要ですが、より重要なのは限られた時間の中で、全力で問題に体当たりすることだと思います。なぜなら、全力で問題に向き合った時にひと回りもふた回りも成長することができるからです。逆を言えば全力で問題に向き合わなけ

目次へ



れば本当の成長は望めないということです。ですから、演習はしっかりと受けていただきたいです。大原で実施される演習をペースメーカーにして勉強を進めつつ実力を高め、本番でその実力を発揮できるようにして欲しいですね。



### 企業法担当：長谷川 暢

**長谷川** 演習で重要なのは、結果が出なかったときの原因を検証することです。暗記が不十分だったからなのか、問題文の分析が甘かったからなのか、暗記はしていたけど応用問題に対応できなかったからなのかなど様々な要因が考えられるでしょう。その要因をはっきりさせて予習をし、次回の演習に挑むことで自分の経験値を高めることが重要です。合格者はこの経験値が他の受験生を上回っているため合格しています。ですから、演習を受けないということは、この経験値を高める機会を放棄していることになります。貴重な経

[目次へ](#) 

験の機会を無駄にしないために、どんなにきつくても演習を受けてください。また、解説も必ず受講して、自分では気が付かなかった点を確認してメモを取っておきましょう。

**瀧本** そうですね。演習は、ただ受ければよいということではありません。特定の演習で点数を取りたいがために、前日にその論点ばかりやるというのはNGですし、普段の学習を疎かにして、ただ何となく演習を受けているには意味がありません。演習では、演習を実施しているその時点での実力を測り、今後の対策を練っていくことに目的があります。

**永瀬** 演習を受けることで、現状での自身の足りない要素の把握と今後の課題を明確にすることが大切ということですね。

**瀧本** もう一つ強調しておきたいこととして、特に短答式試験を受験される方へのメッセージになりますが、「論文演習は必ず受講してください!」ということです。皆さんの目的は論文合格です。そのためには、論文式試験の実戦練習を積みなければなりません。また、論文式試験に向けた学習は短答式試験の理解を促進させます。無機質に暗記をするよりも理解したうえで暗記するほうが効率も良くなり、忘れにくくなるはずですよ。

## 復習方法について

**永瀬** 演習についての復習をどの程度のレベルにまで持っていくべきか、いかがですか？

**水野** 本試験を終えた皆様とお話をしていると、

目次へ 

「あっ、演習で見たことある！って思いました！」や「違和感なく解くことができました」という声をいただきます。それほど大原の演習は的中するので、復習をしていくことによって合格へ最短距離で進むことができます。「演習で出題されたものが、仮に本試験で同じ問題として出題された場合、満点が取れる」という状態にご自身を持って行っていただくことがとても重要です。

**年神** 問題を解いた後、解答解説を受ける時点で1回。答案が返ってきた時点でもう1回。さらに、演習の1ヶ月後を目安として1回。こうすると約1ヶ月の間に3回確認することになります。この3回は気合を入れて復習して欲しいですね。そうするとちょっとやそっとでは忘れない記憶となります。

**永瀬** それでは、演習の復習に追われてしまい、テキストにしばらく触れていないという方はどうでしょうか。

**年神** まずは、テキストの目次をよく見て、内容を思い出せない論点やあやふやな部分を見つけたら、その論点や部分から優先的に確認してください。一方、覚えている論点はさっと確認するだけでいいでしょう。試験勉強もリスク・アプローチです。重点的に時間を掛ける部分を誤らないようにしてください。

**永瀬** やはりテキストが最重要ツールである点は、どの時期・どの科目でも共通ですね。それでは、5月短答を受験される方は、どのタイミングから短答科目の比重を高めていくべきでしょうか。

目次へ 



※演習会場イメージ

**長谷川** 短答直対演習が3月から始まっているので、そのタイミングで短答科目の比重を高めていくとよいでしょう。短答直対演習の出題範囲を確認して、時間の許す限り全力で予習をして演習を受けて下さい。決して苦手分野を後回しにせず、むしろ苦手を払拭するチャンスと考えて積極的に学習しましょう。また、短答の比重を高めたからと言って、論文対策を全くしなくていいという訳ではありません。論文式全国統一公開模試第1回が3月29日(金)、3月30日(土)、3月31日(日)に実施されます。5月に短答式試験を受験される方は、論文式試験と両方の合格を見据えた学習がとても重要になります。この公開模試や論文演習をきちんと受験して、論文式対策もある程度継続しながら、短答突破を目指す必要があります。

**永瀬** 5月短答式試験終了から発表までの期間の過ごし方について、いいアドバイスはございますか。

目次へ 

**年神** 短答式試験当日の試験終了後に自習をされる方はいらっしゃると思います。8月の論文式試験はそんな方と同じフィールドで戦うことになるのですから、この期間休息なんてしてはいけません。8月の論文式試験が終われば休息はとれますし、一生を左右しかねない1ヶ月です。短答式試験終了後は、8月に向けての学習をすぐに開始していただきたいです。

## 論文式試験に向けて

**永瀬** 最後の最後、論文式試験の直前の時期は、どのような勉強が効果的でしょうか。科目も多く、優先順位がなかなか付けにくいようです。

**水野** 本試験が近づくにつれて苦手意識をお持ちの科目に多くの時間を使われると思います。ただし、科目ごとのバランスは非常に重要です。栄養バランスが崩れると体調にも変化が生じてしまいます。特に会計士試験は多科目試験であるので、苦手意識をお持ちの科目だけでなく、順調に進んでいる科目に関しても忘却との戦いがあります。それらの科目が衰えないようにバランスよく進めていただきたいです。具体的には、時間で区切って学習を進めていただく、つまり、時間がきたらある程度諦めて次の科目に進む、という学習が必要です。どうしても今やっている分野のきりがよくなってからと思われてしまいますが、きりがよくなってからとすると、例えば、野菜は後回しにして肉を先にどんどん食べてしまうと、結果として、肉だけでお腹一杯になってしまいます。それでは栄養バランスが崩れてしまうということですね。

目次へ 

**長谷川** 本試験で重要なのは、他の受験生が解ける問題は自分も確実に解けるという状態を作っておくことです。苦手な分野が幾つかあっても、受験生の多くは同じ分野を苦手に行しているのです、ほとんど差がつきません。一番怖いのは、他の受験生が解ける問題を自分は解けなかったという結果になることです。例えば、昨年度の本試験で出題された「譲渡制限違反の株式譲渡の効力」については、ほとんどの受験生が十分に論述できていましたが、そこで取りこぼしてしまったのでは致命傷につながりかねません。そこで、最後の最後にやるべき事が決まっていな方は、見たことのない知識・問題に手を広げるより、問題集、論文総まとめ若しくは論文演習の問題というように、他の受験生もマスターしている問題をもう一度確認し、穴をなくす勉強をしてください。また、論文式試験では条文が重要な意味を持ちますから、条文の目次を見ながら、どこにどのような規定があるのかを確認しておいて下さい。

**永瀬** この試験は競争試験ですので、苦手分野を少なくすることを優先対処し、その後に得意分野をさらに磨く学習が効率的ということですね。



※試験会場イメージ

## 各担当者からのメッセージ

**永瀬** それでは最後に、一言ずつ受講生の皆さんへエールをお送りいたしましょう。

**水野** 逆算して万遍なく最後は確認していきましょう。前日は何する？では、その前日は？…と逆算をすると網羅的に学習できます。そして、当日は今までやってきたことを信じて最後の1秒まで真剣勝負です。粘って粘っていけばおのずと点数もつってきます。最後まで全力で頑張りましょう。

**長谷川** 暗記したことをすぐに忘れてしまう、同じミスを繰り返してしまうというのは誰もが抱えている悩みです。重要なのは、「忘れては暗記する」「ミスした原因を探る」ことを繰り返すことができるかどうかです。それさえできれば合格できるといっても言い過ぎではありません。「合格するぞ!」という強い意志を持って、この単純作業を繰り返してください。

目次へ 

**年神** 試験を突破するために、本試験までの限られた時間の中で、コツコツとできるだけ多くの論点を思い出せるように準備を重ね、「得点できる実力」を培ってください。特定の論点にこだわりすぎることなく、バランス良く蓄えていきましょう！

**瀧本** 本試験当日に最高の結果を勝ち取れるように、最後まで走り切りってください。合格に必要なものは、「絶対に合格する！」という強い気持ちです。

**永瀬** 合格に必要な学習時間を確保することは当然必要ですが、やみくもに時間を費やしても良い結果には繋がらないものです。現在の自身が持っている力や課題を演習により正しく把握し、本番までに残された課題をひとつ一つ潰すことを計画的に実行していけば、合格は手に入ります。目標達成への意欲を持ち続け、勝ち取ってください。

それでは、以上で終わります。ありがとうございました。